

# 大阪産業大学

## 国際学部「日本語教員養成プログラム」

### 〇沿革と概要

大阪産業大学国際学部は2017年4月に設立され、それと同時に「日本語教員養成プログラム」（以下、プログラム）が開設されました。プログラムは、大阪という異文化受入れや外国人との共生・教育支援という長い歴史と経験とスピリットに基づき、学部の理念である“Think globally, act locally”を体现できる学生の養成を行っています。地域の日本語学校、学校、自治体、国際交流センター、地域日本語教室等とつながりながら、習得した知識やスキルを社会に還元できる日本語教育人材の育成を目指しています。

プログラムは、登録日本語教員の資格取得に係る経過措置において、「平成12年報告に対応した日本語教員養成課程等【D-1ルート】」、ならびに「必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成課程等【Cルート】」として文部科学省の確認を受けました。

### 〇受講資格・定員

国際学部の正規学生であれば、だれでもプログラムを受講することができます。ただし、実習機関の受入れ人数については、毎年「日本語教育実践1」で15名、「実践2」で10名までとしています。

### 〇課程修了要件

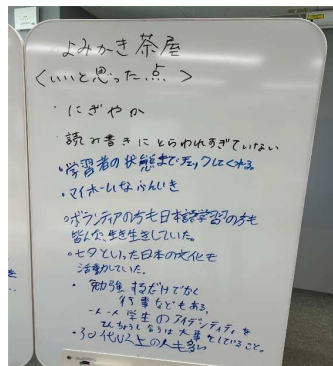
プログラムには、「主専攻」と「副専攻」の2つがあり、選択が可能です。プログラム修了には、主専攻では46単位、副専攻では26単位の取得が必要です。そして、一定の科目を履修

した後、主専攻、副専攻とも、国内または海外の日本語教育機関において教壇実習を含む教育実習に参加し、単位を取得して初めてプログラム修了となります（実習の詳細は下記）。

### 〇課程授業の一例

さまざまな科目で日本語教育について学ぶなか、3年次受講科目である「日本語支援論」を紹介します。「日本語支援論」では、「教師として日本語を教える」のではなく、日本で生活する外国ルーツの人々の背景や状況について学び、それまでに習得した日本語教育の知識や技能を活かしながら、その人たちにどのような学習支援ができるのか、どのような日本語交流活動ができるのかについて考えます。

フィールドスタディとして、外国ルーツの子どもへの学習支援教室、成人対象の識字・日本語教室、夜間中学等を訪問し、そこでの学びをもとに、日本語交流活動案を作成します。



「よみかき茶屋」フィールドワーク後の振り返り

### 〇教壇実習

大阪産業大学では、「日本語教育実践1」（国内実習）、「日本語教育実践2」（海外実

習）を設置しています。いずれかの単位取得がプログラム修了の必須要件であり、いわば総仕上げとして位置付けられています。なお、希望すれば、その双方を履修することもできます。「実践1」は大阪・兵庫の日本語学校で、「実践2」は韓国・台湾の大学等で、実際に日本語の学習者を前に、これまで学んできた日本語、そして日本語教育の知識を生かして教壇に立ちます。大阪産業大学の教員と実習先の教員とが連携することで、現地での豊かな学びを実現します。



実習風景1:「実践1」（日本語学校にて）



実習風景2:「実践2」（台湾の大学にて）

### 〇学習支援体制

本プログラムでは、理論と実践をつなぐ、学生と教員の研究スペースとして、「日本語共同研究室」を用意しています。そこは、学生がいつでも集い、深く学べる大切な場所になっています。授業の予習はもちろん、教育実習の準備に欠かせない専門図書や教材がすぐ手に取れる

環境です。さらに、代々の先輩たちの実習報告書や卒業論文は、学生たちが将来を描く貴重なガイドとなります。仲間と切磋琢磨し、日本語教員への一歩を踏み出すための、温かくも刺激的な学びの空間です。



共同研究室で仲間とともに学習

### 〇課程修了と進路

プログラム修了生には、大学から修了証書が発行されます。

過去の修了生は、国内の日本語学校や海外の日本語教育機関に日本語教師として就職しています。また、留学生の場合は、母語と日本語の能力を活かし、企業や監理団体で技能実習生に日本語を教えている人もいます。さらに、大学院に進学し、学びを深める学生もいます。

### 〇大阪産業大学の養成課程について知るには

大阪産業大学国際学部の「日本語教員養成プログラム」については、大学のホームページから国際学部国際学科のページをご参照ください。なお、これまでのコース制から2026年度よりプログラム制となり、日本語教員プログラムで日本語教員をめざすことができます。ぜひ一度ご覧ください。

<https://www.osaka-sandai.ac.jp/fc/in/in/>